

1. 矢川克郎他. ICHにおける医薬規制国際用語集作成の現況と残された課題. 月刊薬事. 38,1003 (1996)
2. 津谷喜一郎. MEDDRA. 日本の見方. 月刊薬事. 38, 993 (1996)
3. 手塚日令二. 医薬品情報伝達におけるICHの成果 MedDRA. 月刊薬事. 39, 2447 (1997)
4. 手塚日令二. ICHの医薬品規制用語集(MedDRA)の開発と用語の標準化. あいみつく. 19, 10 (1998)
5. 櫻井靖郎. ICH 医学用語集 MedDRA について. 医薬品研究. 29,(5) 388(1998)
6. 手塚日令二. 医薬品規制用語(MedDRA)の現状と将来展望. ファルマシア. 35,1047 (1999)
7. 平松和好. MedDRA 日本語版の作成状況及び概要について. 医薬品研究. 30, (2) 92 (1999)
8. 中村陽子他. MedDRA の利用について. 医薬品研究. 31, (6) 421 (2000)
9. 矢川克郎. JMO その存在意義. 医薬品研究. 31,(6) 427 (2000)
10. 櫻井靖郎. MedDRA の日本国内導入,過去のデータ移行と新規データ入力. 医薬品研究. 31,(6) 432 (2000)
11. 伊藤哲夫. MedDRA/J のメンテナンスについて. 医薬品研究. 31,(6) 444 (2000)
12. 伊藤哲夫他. ICHにより作成された国際医薬用語集(MedDRA)医学のあゆみ. 193,(12), 976 (2000)
13. 赤城典子. ICH 医学用語集 MedDRA について. 日本薬剤師会雑誌. 52, 83 (2000)
14. Yokotsuka M. , A. M. , Kubota K. "The use of a medical dictionary for regulatory activities terminology (Med DRA) in prescription-event monitoring in Japan (J-PEM)". International Journal of Medical Informatics. 57. 139-153(2000)
15. 高橋 弘充, 高瀬 浩. 標準化医学用語辞書 MedDRA の利用を考えるー治験実施管理システムにおける MedDRA/J を組み込んだ有害事象報告システム. 医療情報学連合大会論文集 20 回. 904(2000. 11)
16. 佐藤 嗣道, 河辺 絵里, 久保田 潔. 日本版処方-イベントモニタリング(J-PEM)における MedDRA 用語選択の考慮点. 医療情報学連合大会論文集 21 回. 258-259(2001. 11)
17. 河辺 絵里, 佐藤 嗣道, 溝越 恵美子, 小林 美規, 久保田 潔. MedDRA/J の日本語環境に特有の問題 MedDRA/J 利用会員に対するアンケート調査の結果. 医療情報学連合大会論文集 21 回. 283-284(2001. 11)
18. 河野 光男, 高橋 真也, 上原 恵子 他. MedDRA/J 用語と添付文書用語、医薬文献用語との自動関連付けシステム構築. 日本薬学会年会要旨集 122 年会 4 号 119(2002. 03)
19. 手塚 れい二. メディカルライティング教育コース 医薬情報用語の管理. 薬理と治療. 30 巻 7 号 515-517(2002. 07)
20. 鈴木 博道, 折井 孝男, 鎌田 志乃ぶ, 他. 医薬情報管理ツールとしての国際医薬品規制用語集 (MedDRA/J)評価の試みー病名用語について. 医療情報学連合大会論文集 22 回. 744-745(2002. 11)
21. 河辺 絵里,久保田 潔. 副作用の未知・既知の判断に関する MedDRA/J 用語の問題 MedDRA/J 利用会員に対するアンケート調査の結果. 医療情報学連合大会論文集 22 回. 514-515(2002. 11)
22. 佐藤 嗣道, 久保田 潔. 日本版処方-イベントモニタリングにおける MedDRA 使用の実際. 医薬安全性研究会会報. (0288-2906)47 号 15-22(2002. 12)
23. Jiang Guoqian, Ogasawara Katsuhiko, Endoh Akira, Sakurai Tsunetaro. UMLS semantic type groups を使用した日本での対照臨床術語の適用判定(Coverage Evaluation of a Japanese Controlled Clinical Terminology Using the UMLS Semantic Type Groups)(英語). 医療情報学連合大会論文集 (1347-8508)23 回 Page925-926(2003. 11)

24. 折井 孝男, 武隈 良治. 医薬品情報の展開を考える 安全性情報から標準病名,ICD-10,MedDRA まで. 医療情報学連合大会論文集 23 回 155-156(2003. 11)
25. 小山 弘子. E2B(M)ガイドラインの運用の動向. 医薬品研究 35 巻 2 号 115-121(2004. 02)
26. 林 憲一. ICH の最新動向について 日米 EU 医薬品規制調和国際会議ワシントン会議(運営委員会/専門家作業部会)の結果について(解説). 医薬品研究 35 巻 10 号 521-527(2004. 10)
27. 友田 昭二. 有害事象の評価に関するコンセンサスを目指して MedDRA のもつ不整合性 入力者と出力者の意思統一を目指して. 臨床薬理 (0388-1601)36 巻 1 号 31-32(2005. 01)
28. 友田 昭二. 有害事象の評価に関するコンセンサスを目指して MedDRA のもつ不整合性 特に日欧米間における病名・診断基準の乖離と整合性確保の方策. 臨床医薬 21 巻 11 号 1071-1075(2005. 11)
29. 畑中 薫, 北村 幸彦, 笥 隆子, 他. 有害事象の MedDRA 用語選択における医学的留意点. 臨床薬理 36 巻 Suppl. S198(2005. 11)
30. 鈴木 博道, 清水 昇, 中須 弘平. セマンティック Web エンジンを用いた MedDRA/J のオントロジ化とその応用方法の研究. 医療情報学連合大会論文集 25 回 1317-1319(2005. 11)
31. 櫻井 靖郎. MedDRA 標準検索式(SMQ)の開発とその役割について. 医薬品研究 37 巻 5 号 347-361(2006. 05)
32. 鈴木 博道, 清水 昇, 足立 和夫. 医療オントロジーの基礎と応用 セマンティック Web を用いた MedDRA オントロジの開発とその利用方法の研究. 医療情報学 25 巻 6 号 447-455(2006. 06)
33. 畑中 薫. 薬剤投与後に生じたアナフィラキシーに関する MedDRA 用語選択上の問題点. 日本 Shock 学会雑誌 1 巻 1 号 50(2006. 04)
34. 畑中 薫. 有害事象の MedDRA 用語選択における医学的留意点. 臨床薬理 37 巻 5 号 317-318(2006. 09)
35. 櫻井 靖郎. 臨床現場にとって有用な副作用情報の報告・伝達・活用 医薬品の副作用/有害事象の報告・評価における MedDRA の意義と役割. 薬剤疫学 11 巻 Suppl. 22-23(2006. 10)
36. 櫻井 靖郎. MedDRA および MedDRA/J MedDRA および MedDRA/J とは? 概要と最近の動向. JAPIC J. 7 巻 99-108(2006. 11)
37. 田部井徹, 他. 安全性情報・症例の【日⇔英】翻訳. 技術情報協会 2007.1
38. 畑中 薫. 日本の医薬品添付文書と国際的な MedDRA 用語集におけるアナフィラキシーに関する用語の定義について. 臨床薬理 38 巻 2 号 115-117(2007. 03)
39. Hirofumi MAKINO, Masakazu HANEDA, Tetsuya BABAZONO. et al. 正常血圧及び高血圧の日本人 2 型糖尿病患者におけるテルミサルタンを用いたマイクロアルブミン尿症の抑制. Hypertens. Res. 31(4)657-664 (2008. 4)
40. 山中 昇, 保富 宗城, 藤原 啓次. 急性咽喉頭炎,急性扁桃炎および急性鼻副鼻腔炎に対する azithromycin 単回投与製剤の多施設共同, 非盲検非対照試験. 日本化学療法学会雑誌 56(5)525-537(2008. 9)
41. 金子 周司. リスクマネジメント 院内での薬剤師の活動 薬物有害事象症例 AERS の医薬品名解決と薬物分類および化合物構造からの検索システム. 医薬ジャーナル 46 巻 1 号 125-132(2010. 01)
42. 杉原 大悟, 大熊 智子, 三浦 康秀, 外池 昌嗣 他. 表記ゆれ解消手法を利用した副作用表現の獲得. 医療情報学連合大会論文集 30 回 405-408(2010. 11)

43. 細田 眞理, 橋口 正行, 望月 眞弓. ACE 阻害薬使用による高カリウム血症 血中カリウム上昇の関連要因の検討. 薬剤疫学 15(2)49-59(2011. 2)
44. 濱田 智子, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 プラゾシンとブナゾシンの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 68 巻 3 号 463-467(2012. 09)
45. 上杉 史, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 アテノロールとビソプロロールフマル酸塩の有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 68 巻 3 号 451-456(2012. 09)
46. 川上 準子, 佐藤 憲一, 他. 副作用情報の SOM を用いたビジュアル化と解析・糖尿病治療薬を用いて. 医薬ジャーナル 49(2)707-717, 592-596(2013. 2)
47. 佐久山 光平, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 ニトレンジピンとニソルジピンの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 69 巻 2 号 295-300(2013. 02)
48. 鶴巻 夏紀, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 イブプロフェンとロキソプロフェンナトリウムの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 (0389-3898)69 巻 2 号 275-281(2013. 02)
49. 小池 一斗, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 ニザチジンとラニチジン塩酸塩の有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 69 巻 2 号 283-288(2013. 02)
50. 奥野 穂奈, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 リルマザホン塩酸塩水和物とロルメタゼパムの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 69 巻 2 号 267-273(2013. 02)
51. 木曾 俊斉, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 トラニラストとタザノラストの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 69 巻 2 号 289-294(2013. 02)
52. 平澤 美和子, 飯田 有香, 荒川 千佳, 他. 医薬品副作用被害救済制度において給付された生薬および漢方製剤が原因医薬品となった事例分析. 日本薬学会年会要旨集 133 年会 3 号 247(2013. 03)
53. 貫和 敏博, 貫和 敏博. Molecular Biology から呼吸器臨床を考える バイリンガル呼吸器内科医を育成して(8) 病因 関連遺伝子解析-肺胞微石症と薬剤性肺障害-. 日本胸部臨床 72(6)655-664(2013. 6)
54. 田中 佑典, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 トリクロルメチアジドとヒドロクロロチアジドの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 70 巻 2 号 249-254(2013. 08)
55. 田中 佑典, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 アムロジピンベシル酸塩とニルバジピンの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 70 巻 2 号 255-261(2013. 08)
56. 梅津 亮牙, 西端 友里, 鈴木 悠起也, 中村 光浩, 他. 日本国内の有害事象自発報告データベース (JADER)を用いたデータマイニングによる経口血糖降下薬と低血糖症との関連性の評価. YAKUGAKU ZASSHI 134(2)299-304(2014. 2)
57. Gahr M. , 他. Agomelatine および他の抗うつ剤が関連した肝毒性. Uppsala Monitoring Centre からの Pooled Pharmacovigilance Data を用いた不均衡解析. J. Clin. Pharmacol. 55(7)768-773(2015. 7)
58. 高野 淳, 醍醐 弥太郎, 他. 抗がん剤の副作用と支持療法-より適切な抗がん剤の安全使用をめざして- III 抗がん剤の副作用に対する評価と処置 抗がん剤の副作用の評価(有害事象評価). 日本臨床 73(S2)75-78(2015. 2)
59. 中村 光浩. 医薬品・医療機器グローバル開発におけるレギュラトリーサイエンスの将来像 市販後副作用等ビッグデータ解析の実例. 日本薬学会年会要旨集 135 年会 1 号 216(2015. 03)
60. 細見 光一, 新居 万莉, 藤本 麻依, 高田 充隆. 日米の有害事象自発報告データベースを用いた解析の

比較と活用展望 ニューキノロン系抗菌薬による有害事象の安全性シグナルを用いて. 医薬品情報学 (1345-1464)17 卷 1 号 15-20(2015. 05)

61. 細見 光一(近畿大学 薬学部臨床薬学部門臨床薬剤情報学分野), 新居 万莉, 藤本 麻依, 高田 充隆. 日米の有害事象自発報告データベースを用いた解析の比較と活用展望 ニューキノロン系抗菌薬による有害事象の安全性シグナルを用いて. 医薬品情報学 17 卷 1 号 15-20(2015. 05)
62. Yukiya Suzuki, Honami Suzuki, Ryogo Umetsu, et al. クロピドグレル,アスピリンおよびプロトンポンプ阻害剤の相互作用に関する FDA 有害事象報告システムのデータベースを用いた解析. Biol. Pharm. Bull. 38(5)680-686(2015. 5)
63. 水谷 紗弥佳, 小寺 正明, 五斗 進. FDA 有害事象自発報告データに基づく副作用の分類と特徴付け. 日本毒性学会学術年会 42. 1(0), S14-5, 2015
64. 梅津 亮冴, 阿部 純子, 上田 夏実, 他. 日本国内の有害事象自発報告データベースを用いた一般用医薬品の有害事象発生傾向の調査. YAKUGAKU ZASSHI 135(8)991-1000(2015. 8)
65. 諏訪 清美, 大倉 征幸, 吉川 麗. バレニクリン酒石酸塩錠と意識障害および事故または怪我の関連性の検討. Prog. Med. 35(8)1371-1379(2015. 8)
66. 畠平 春奈, 松井 利亘, 加藤 大和 他. 有害事象自発報告データベースに基づくスタチン系薬剤による耐糖能異常新規発症リスクに関する研究. 医療薬学 42(2)98-106(2016. 2)
67. 中村光浩. 市販後副作用報告データ解析の実例. YAKUGAKU ZASSHI 136(4) 549—556 (2016)
68. 関山英孝、水孝司. 医薬品副作用データベースの要約と副作用報告数に影響する要因の検討. 計量生物学 Vol. 37,No. 2,89-100(2016)
69. Gahr M. , 他. 抗うつ性精神薬理療法に関連した薬物性肝障害. 異なる MedDRA 用語を用いた定量的シグナル検出に基づく探索的評価. J. Clin. Pharmacol. 56(6)769-778(2016. 6)
70. 岡 卓志(マイラン EPD), 浅野 陽子, 他. パンクレリパーゼ製剤(リパクレオン)の特定使用成績調査 慢性膵炎および膵切除等による膵外分泌機能不全患者における長期使用に関する調査(原著論文). 診療と新薬 53 卷 11 号 1002-1012(2016. 11)
71. 榊原 麻貴, 酒井 隆全, 森 千与, 日野村 靖, 後藤 伸之, 大津 史子. FAERS を用いた授乳中に発生した乳児の有害事象報告の現状と分析. 医薬品情報学 18(2), 114-122, 2016
72. Sakai T, Ohtsu F, Sekiya Y, Mori C, Sakata H, Goto N. Methodology for Estimating the Risk of Adverse Drug Reactions in Pregnant Women: Analysis of the Japanese Adverse Drug Event Report Database. Yakugaku Zasshi. 136(3) 499-505.2016
73. 大山 勝宏, 井上 みち子. 選択的 β アドレナリン受容体作動薬と血圧上昇との関連性. 日本の有害事象自発報告データベース(JADER)を用いた解析. 薬学雑誌 乙号 136(7), 1065-1071, 2016
74. 鈴木 悠起也, 岸 達生, 中村 光浩, 山田 博章. 医薬品添付文書の重大な副作用の追記に影響を及ぼす要因の解析. 医薬品情報学 19(1), 17-23, 2017
75. 長谷川 栞, 加藤 大和, 大森 智史, 井口 和弘, 中村 光浩, 他. 有害事象自発報告データベースを用いた OTC 医薬品の解熱鎮痛消炎剤の有害事象発現傾向の調査. 薬学雑誌 乙号 137(10), 1301-1311, 2017
76. 笹岡 沙也加, 上田 夏実, 平出 耕石 他. 有害事象自発報告データベース(JADER)を用いた一般用医薬品の総合感冒剤による有害事象プロファイルの検討. 薬学雑誌 乙号 138(1), 123-134, 2018

77. 駒田 富佐夫 . 低分子分子標的治療薬による血液に対する有害事象の発現時期に関する調査. 医薬品情報学 20(1), 29-35, 2018
78. 平 雄文, 大磯 茂, 仮屋菌 博子. 医薬品副作用データベースを用いた薬剤性急性膵炎発症リスクの解析. 医療薬学 45(8)441-450(2019. 8. 10)
79. Reith David M, Tilyard Murray W, Dovey Susan M, et al. Medication-related Harms to Paediatric Patients in Primary Care. 日本薬理学会年会要旨集 PO2-15-9, 2018
80. 大矢 和幸, 安部 賀央里, 頭金 正博. JADER を用いた医薬品の重症皮膚副作用の予測. 日本毒性学会学術年会 46. 1(0), P-75S, 2019
81. HAGA Tomohiro, TAKI-TAKEMOTO Iori, MURASE Remi, KAMEI Daisuke, IWAI Shinichi. Risk of Drug-Induced Accidents and Injuries in Elderly Patients Treated with Specific Drugs Rather than Polypharmacy. Analyses of the Japanese Adverse Drug Event Report Database. The Showa University Journal of Medical Science 31(2), 125-137, 2019
82. 高田 和季, 安部 賀央里 , 頭金 正博. 大規模副作用データを利用した機械学習による薬物性肝障害の予測手法の開発. 日本毒性学会学術年会 47. 1(0), P-96S, 2020
83. 島田 和代, 長谷川 葉, 中尾 智史, 他. 有害事象報告データベース(FAERS 及び JADER)を用いた ifosfamide 誘発性脳症の評価. The 140th Annual Meeting of the Pharmaceutical Society of Japan (Kyoto). March 25th-28th, 2020
84. 鈴木 優果, 永井 純子, 黒崎 宏太, 増山 雄平, 植沢 芳広. 副作用データベースを用いたエストロゲン製剤が誘発する副作用の探索. The 140th Annual Meeting of the Pharmaceutical Society of Japan (Kyoto). March 25th-28th, 2020.
85. 向井 潤一, 丸山 沙季, 尾鳥 勝也, 久保田 理恵. ADER を用いた抗うつ薬による高血糖/糖尿病の発症の可能性に関する検討. 薬学雑誌 140(4), 591-598, 2020
86. 酒井 隆全, 和田 侑輝人, 古閑 晃, 田辺 公一, 後藤 伸之, 大津 史子. 日本の有害事象自発報告データベース(JADER)を用いた研究におけるチェックリストの作成と実態調査. 医薬品情報学 22 巻 1 号 7-16(2020. 05)
87. Eiko Iwasa, Yu Fujiyoshi¹, Yuki Kubota¹, Ryota Kimura¹, Rebecca E., et al. Interstitial Lung Disease as an Adverse Drug Reaction in Japan: Exploration of Regulatory Actions as a Basis for High Reporting. Drug Safety 43:1121–1131(2020)
88. 長谷部 裕子, 神蔵 巧, 春名 成則. 糖尿病を有する膵外分泌機能不全患者におけるパングレリパーゼ製剤(リパクレオン)投与量別の安全性および有効性. 診療と新薬 57(8)799-812(2020. 8. 28)
89. 内田 まやこ. がん治療の有効性と安全性の評価基準. 薬局 71 巻 11 号 3408-3412(2020. 10)
90. 番匠谷 研吾, 木村 光, 中村 徹也 他. 有害事象自発報告データベース(JADER)を用いた医薬品による水中毒に関する解析. 医療薬学 47(2)91-95(2021. 2. 10)